

プロジェクター用反射鏡

グローバルシェア45%を超える当社の主力商品

13/3期実績

- プロジェクターは新興国において教育用途での普及が進むも米欧中で需要の拡大傾向が鈍化
- それを受け、セットメーカーで在庫調整の動き
- 低価格品の需要増加で平均販売価格は低下

14/3期展開

- 教育用途を軸とし、プロジェクターの需要は増加するが、同時に低価格化が進む。
- 高輝度高付加価値商品の拡販により当社シェアの向上を図る。
- 当社の想定シェア:45%(13/3期)
47%(14/3期)

	13/3期実績	14/3期予想	
売上(百万円)	2,066	下落	↓
数量(千個)	—	微増	↔
単価(円)	—	下落	↓
シェア	45%	47%	↔

フライアイレンズ

高透過率化を武器とし、更なる販売拡充を目指す

13/3期実績

- 前年度に完成した専用炉による生産力向上で販売数量、販売金額が増加。
- 平均販売価格は下落傾向。



フライアイレンズ

14/3期展開

- ガラスの高透過率化を武器に、フライアイレンズのシェア拡大を目指す。
- DLP用反射ミラー、固体光源プロジェクター用光学レンズ等の高付加価値製品の獲得を図る。

	13/3期実績	14/3期予想	
売上(百万円)	1,043	増加	↗
数量(千個)	—	増加	↗

自動車レンズ・一般照明

新溶融炉の量産によるコスト競争力により拡販する

13/3期実績

- 自動車用ヘッドレンズ・フォグレンズは樹脂製品へのシフトが進み、当社ガラス製品への需要の減少が続いている
- LED照明向け製品は好調



自動車用照明



一般照明

14/3期展開

- 自動車照明カバーガラスは樹脂化の傾向がさらに進む。軽量薄肉化により拡販を目指す。
- 今後はLED化促進に伴う光学ガラス(COB/チップ・オン・ボード)の新規需要などの一般照明分野を拡大する。

	13/3期実績	14/3期予想	
自動車レンズ			
売上(百万円)	481	減少	↓
数量	-	減少	↓

経営課題

1. 既存事業の収益確保

- (1) 反射鏡製造ラインの集約
- (2) 余剰能力の活用
- (3) 柏 薄膜事業所の業態変革
- (4) フライアイレンズのトップシェア奪取

2. 新規事業の量産・黒字化

ガラス偏光子、フリット、機能性薄膜

3. 次世代事業の探索・育成

オーバーフロー法・薄板成型、ミニマルファブ、江戸っ子1号